



「大根運び」

(木版)

細川光 拈

岩見沢市立毛陽小学校5年

第15回北海道教育美術展奨励賞作品

評

働いている人のようすがとても
もっさり表現できています。
目や手のようすがとてもよい
です。

目次	ようこそ苦小牧へ..... 2	サークル紹介・根室..... 6
	過去の苦小牧大会..... 3	実践紹介..... 7
	造形ひろば..... 4・5	原点..... 7



北海道
造形教育
連盟報

No. 86 1990.7.30 発行

発行 北海道造形教育連盟

事務所 〒064 札幌市中央区宮の森4条11丁目4の1
札幌市立三角山小学校 ☎643-1133

ようこそ苫小牧へ



苫小牧大会

実行委員長 池本良三

昭和30年代に入って“道央のくさび・苫小牧”をキャッチフレーズに、はまなすの咲く砂丘を掘り込み、世界的にも有名な人工の港を作り、広大な勇払原野を切り開いて一大工業プロジェクトを構築し、臨海・臨空の工業都市として発展しつつありますが、なんといっても、古くからの「紙の街苫小牧」のイメージが定着していると思います。

王子製紙をはじめ、山陽国策パルプ、隣り町白老の大昭和製紙とその関連会社が当地域に集まっており、新聞用紙からさまざまな種類の上質紙、ダンボール原紙、紙コップ原紙、トイレットペーパーといろいろな紙が生産されています。

図工・美術の素材として紙が90%以上を占めていますが、それらの多くが地元で作られていることは、私達も子供達にも意外と知られておりませんでした。

3年前、「紙の街苫小牧・白老」の次代を担う子供達にもっともっと地元で作られる紙について知ってもらい、存分にふれあってもらおうということで《紙フェスティバル》を企画し実施して参りました。その中心的役割を苫小牧市造形研究会が担ってきた訳ですが、工場から出来たての、幅9m長さはほとんど無限大で全部のばしてマラソンコースを作ってもまだ余るといふものを10m程に裁断して「さあ、どうぞ」と差し出された時は研究会の先生方もただ啞然、手も足もでませんでした。市内各学校の子供達にアイデアを出してもらい、この巨大紙に挑戦してもらったのですが、なかなか思うようにはいきません。《紙フェスティバル》は苫小牧市と白老町の総合体育館で行われますが、企業展示をはじめ各学校からの出品、参加者が自由に作る創作コーナー、紙すき、などの体験コーナー、ゆかいなゲームコーナーなど盛りたくさんな内容で展開されますが、さしもの広い体育館も手狭になってしまいます。昨年、一昨年は日曜日におこない4000人以上も集まってくれましたが、今回は会場の都合で平日実施となり、しかも月末ということで参会者もいくらか少なくなると思いますが、その分全道造形大会に参加の先生方に存分に楽しんでいただき、御指導をいただきたいと願っております。

18回・30回、そして今回の40回大会と苫小牧では3度目の開催となりますが、「広がり・深まり・そして感動を!!」をテーマに、《紙フェスティバル》を中心として展開します。講演は、今をときめく話題の芸術家・秋山祐徳太子氏で「通俗的芸術論」が楽しみです。

過去の苫小牧大会をふりかえって

苫小牧 遠藤満男

1. 昔のことは、なつかしいが忘れた

学校をやめるとき（49年）、それまでの学校に関係した40年間のことは、さっぱりと忘れることにした。籍はあるけれど、校長会にも同窓会にも、同期の会にも、全く出ない。

ただ一つ、絵に関係することだけは残してある。

残したおかげで、池本良三君との縁は切れない。

ボクは、交友の幅を狭くして孤独になろうとしているのに、彼は、交友の幅を広げて活動しようとしている。ボクは、切りたいが彼はシツコクよってくる。彼のシツコサは今も変わらない。

ボクは、都会の幸福の匿名性とビルの谷間の孤独、を愛している。毎日10時には街の喫茶店にいき、ひとりでコーヒーをのむ。指定席で週刊誌を読み、都会の幸福をしみじみ感じて帰ってくる。

ところが、池本君が退職して、チョコチョコ喫茶店にくるようになった。ボクの都会の幸福も終わりだな。

彼は、画聖セザンヌやルノアールが郊外に住んで、絵に打ちこんだ孤独の心がわからない。

ボクが都会の寂莫や孤独を愛しているのも、彼はわからない。

2. 図工専科の時代 — 船着君との思い出

ボクは、東小に5年いて、また舞い戻り5年いた。専ら図工の専科をやらせてもらって、しあわせの時代だった。

船着昭弘君が1年生を持っていたとき、日本の子どもは、なぐり描きの早描きが多いので、ゆっくり線を引くことができるかどうか試してもらった。

「ゆっくり引け、

と言っても、ゆっくりの基準がないから、子どもにはわからない。それで話したと思う、次のこと。

ボクは、戦後すぐ、武者小路実篤さんの色紙を描いているところを、ま近で見えるチャンスに恵まれた。ゆっくり墨をすったあと、筆の先の方をチョンとつまんで、それこそ、ゆっくりもゆっくり筆を運んだ。そし

て言われたこと一。

「こうして先を持って、ゆっくり描けば、ひとりでの筆がふるえて、まがりまっ直ぐの線が描けるよ。」と。

船着君は、その後、「子どもがゆっくり描けるようになった。」と報告してくれた。

「四つ切りの紙があるでしょう。左から右へ、1センチ1秒の速度で引く。イチ、ニイ、サン、シイ…大体20数えると、はじからはじまで引ける、

「1センチ1秒ねえ、と私が感心つかまつった。

つまりは、こんなことの発見的指導を喜んでいた時代でなつかしい。

3. 池本君をひっぱる

連盟の20回大会を引き受けるにあたって、ボクは当時、追分に勤めていた池本君を、2年がかりで苫小牧によんだ。

その後、彼の活動の場はいよいよ拡大されていった。紙フェスティバルなんかその一つだろう。

さてその紙フェスが、8日白老の体育館であるというので、見に行った。萩野の道路を歩いていると、何と、鈴木君（事務局長）の運転で、池本君が乗っているではないか。や、や、や。

会場に入ったら熱気ムンムン、子どもや先生や参観者がぞくぞく…そこでまた、昔一しょに勤めていた先生たちとあって、「やアやア、で、なつかしい。

苫小牧の今度の大会は、「これを少し大きくした形だ。」と池本君は言った。それは楽しみ！

4. 講師にブリキの皇帝…秋山さんが登場

講師に、秋山さんをお呼びしたとのこと。

いつだったか、アトリエ社の企画の学校訪問のとき、札幌と室蘭の間のトマコマイで休憩してもらった。

そのときの拙宅の歓迎会場で、秋山さんの世にも珍しいステキな歌をきいた。

あの歌をぜひもう一度聞きたい。それに彼の一人。胸にユニークなイメージボックスを持っている。

個性理解について



札幌市立幌南小学校
西 寛

個性を生かす教育、あるいは個性を伸ばす教育の重視が叫ばれている。しかし、その概念はあまりはつきりせず多少のとまどいがあることも否定できない。ただ、今日の学校における画一化・硬直化した教育への批判から、子どもの個性を生かす教育の充実をめざすことは、教育の今日的課題の一つとして厳しく受けとめなければならないであろう。

個性化教育を考える時、子どもの個性をどう見取るか（個性理解）がその前提となる。私は、今日の評価観（児童観）の理念をふまえると、個性とは「その子らしさ、その子のよさ」であるとおさえている。

では、「その子らしさ」をどう見取ったらよいのか。一般的には、できるだけきめ細かに、しかも総合的な全体像としてとらえる必要があるという。その通りだと思ふ。しかし、漠然としていてなかなか大変である。それでは、なんらかの規準や対象との比較関連させて見取るか、あるいはいくつかのタイプに分類するか、これも「その子らしさ、その子のよさ」を見取るといふ視点で考えると問題を感じる。

そこで私は、とり合えず子どもを見取る窓口を設定し、その窓口を通して子どもを見取っていったらどうかと考えている。特に図工科としては、子どもの表現傾向といった窓口を設定し、見取ったことと、日常的にコツコツととらえていく全体像との関連を整理、組織化していくのである。このような積み重ねによってより確かな個性理解へとつながるのではなかろうか。

では、「表現傾向」をどうおさえるか。例えば、色や形にこだわる傾向、物語性に結びつける傾向、機能的や装飾性に目を向ける傾向……このような傾向そのものが「その子のよさ」とおさえたい。なお、子どもの作品や活動のようすを継続的に見取る必要があることはいうまでもない。「確かな見取り」こそ教師の専門性が問われることであり、また教育の目的でもある。

挑戦！ 神代独楽づくり

6年 受けつがれたものから



札幌市立伏見小学校
今 裕子

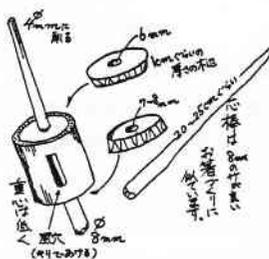
伝承されている玩具の多くは、つくることと遊ぶことが一体となっていて楽しみが大きい。

親から子へ、祖父母から孫へとといった遊びの伝承の機会が少なくなってきた子ども達にとって、神代独楽づくりはまさに「挑戦」である。まず、道具と手を使ってつくることへの挑戦、そして遊び上手になることへの挑戦でもある。

神代独楽は南九州に伝わる鳴り独楽で、竹を素材にしている。この教材化にあたり、伝承された玩具はまず伝承された材料でつくことに意義があると考え、竹と木を使うことにした。

札幌の子には、物干し竿のイメージが強い竹であるが、香りと色の新鮮な青竹には驚きと親しみをもった。

さて、その青竹をノコを使って5～6cmに輪切りにすることから製作が始まる。小刀が中心となるがノコ、キリ、手回しドリル、万力など木工、竹工にかかわる主な道具の体験をすることができる。



カ一杯糸を引いて回わすと大音響、二度鳴りする大思議さ、¹鳴り独楽名人、を目ざして子どもらは真剣！

『子どもの手が虫歯になっています』と指摘され続けている。虫歯予防に手を毎日磨こう。簡単に取り組めるのがまず折り紙。欲張ってみて、この神代独楽づくり。小刀の扱いが達者になります。造形活動がここからさらに広がっていきます。





新教育課程における 中学校美術科の問題点について

札幌市立札苗中学校 島 界 二

この欄を借りて上記のことにふれてみたい。

このことについては一年前の連盟報の新指導要領に思うの欄で札苗北中の小幡哲也先生が見解を述べられていたが、これは中学校にとって由々しき問題であるので再度取り上げてみたい。

私は昭和62・63年度札教研美術部長として、この問題は大きくかかわってきた。中学校美術部会内での情報交換、指導主事を講師とした研修会、全国中学校美術教育連盟・全国大会の第8回名古屋大会、第9回東京大会に参加し、北海道の特殊な事情について訴えてきた。教育課程審議会の答申についてはともなく、当時の資料をもとに少しまとめてみたい。

「新教育課程」はこれから私たちの手で編成する

中学校「美術」の授業時数が〈2・1～2・1〉プラス選択〈1〉のかたちで示され現場の先生方から失望の声が上がっていた。しかしまだ決定したものではない。文部省は交渉の場で次のように解答している。

1. 〈1～2〉と示しており、1時間とは言っていない。
2. 現行の時間編成と比べて計算してみれば「美術」は2時間とれるはずである。
3. 授業時間の編成は学校にまかされるので先生方で2時間授業をつくってもらいたい。

(注) 特活及びクラブ活動の扱いの項に注目

このような状況の中で私たちが自ら教育課程を編成するためには以下の点について認識を深め対応していくことが大切になる。

1. 大きな目標を見すえて — 理念として

教育課程の改訂には、その時代の要請する背景がある。改訂による教育によってどんな人間を育成しようとするか、という次の時代をとらえた人間像を明らかにすることが重要である。教課審答申を学習教材として私たちの立場を見なおし、教育の目標を自分のものとしてとらえる努力が必要である。それは、美術教育が文化の時代を迎える21世紀の国民の基礎・基本の

教育であるという理念を確立することにつながる。

2. 現実を確かにとらえて — 実践として

私たちは学校現場の教育実践者として、教育研究団体として現実の課題をしっかりとらえている者である。教育課程改訂にあたっては改善のために自ら努力し発言することが使命であり、実践の第一歩とあってよい。次の3つの立場から各自の努力を求められている。

(1) 美術教育の研究団体として

道造形教育連盟一中学部の連帯、札教研他地方都市美術科研究集団の情報交換。各地区研究団体の活動が期待される。

(2) 学校現場の教育者の一人として

中学校において、教師が自分の教科のカラにとじこもった考え方や態度で教育者として十分に教育に機能しなくなっているのではないだろうか。美術の教師である前に「教育者」としての思考力や行動が必要である。

(3) 美術の教師として

今回の改訂作業の途中において「美術」に不利な結果をもたらしたのは「美術」が絵画や彫刻の作品をつくることを教える芸術家教育と混同されるような実践の印象を改めることができなかったことにも一因がある。

3. 現行〈2・2・1+選択〉を守り続けよう

新教育課程は平成5年度からの実施である。現行教育課程の「美術」を上記であることを明確にして、授業時数を確保し、教員定数を維持することは重要課題である。時間数減が美術科教員減を生み、これが次の時間数減を生む悪循環を一つでも少なくする努力がいる。

4. 組織の力と情報交換で

美術科教員は極めて少数である。郡部、地方都市などの組織の力が一人ひとりの弱さを補う大きな力となる。2時間授業を確保するために最善の努力を続けよう。

根室の造形教育

標津郡標津町立標津中学校 清水克美

根室管内は一市四町で構成され、基幹産業は漁業と酪農が中心です。中でも漁業は鮭鱒などが資源的に豊かですし、その点経済水準は高いといえるでしょう。

また、自然環境との接点も、その気になれば容易に求められ、教育上大きな利点を有します。

さて根室造形教育連盟の会員は20名。一部高齢化が進んでおり、若い世代の活躍が急務です。

造形教育活動の基盤は各市町の図工美術サークルですが、それぞれユニークな活動をしていますのでその一部を御紹介します。

1. 金井委員長をお迎えして、授業研究ならびに実技講習会を開きました。(5月29日、中標津小)

授業は札幌市立山の手西小の毛馬内先生が提供されました。「すみながし」を利用した構想画の授業で、5年生の子どもたちが自分の五感をフルに働かせて集中する様子は感動をもたらしました。

このあと、金井先生から「水彩画の指導について」講演をいただき、作品展示の画鋏一つにも細やかな教育の営みがあるのだと指摘されました。

9月には早弓先生(前副委員長)をお迎えする予定になっております。(中標津町図・美サークル)

2. 標津町造形まつり。昭和44年に第一回が開催された伝統ある行事です。「光と色と音楽と」をテーマにした作品展で、町内在住の幼・小・中学生が全員出品します。絵画・彫刻・工芸の各分野にわたっており、そのユニークな作品は鑑賞者の眼を楽しませてくれます。

さらにユニークなのは、町のマイクロバスの送迎もあり、全町の子どもたちが鑑賞できる仕組みにしております。

幼・小・中教育の一貫性の視点からも注目しているところです。(標津町図美サークル・標津教育研究所)



「標津町造形まつり」



3. 今後の課題

1) 日々の授業の充実に向けて

何ととっても、一時間一時間の授業に子どもたちが眼を輝かせ、集中し表現活動するということが基本です。外部から講師をお招きして学習することや、自分たちの創意工夫での授業交換を今後も続けていかなければなりません。

2) 輪を広げる

各市町にはすぐれた実践者が多くいます。しかし、サークルなどに固定しにくい傾向もあり、その意味でも造形連盟が魅力あるものになっていかなければなりません。

今年度の重点として新会員を各市町ごとに掘り起こしていこうと申し合わせもしました。

1年

ティッシュの箱の大変身

～身近な物から、おもちゃをつくらう～

札幌市立山鼻小学校 大場 章子

1. 題材

日常生活で使っているティッシュペーパー、全部使い切ってしまうと、空き箱は、ごみ箱行き……。

でも、ペーパーの空き箱に切り込みを入れ、折って動かすと、何やらおもしろいものができそうな予感。

ふつうなら捨ててしまうような物でも、ちょっと工夫を加えることにより、おもしろい物、楽しい物になるんだ、ということを生徒達に実感させたいと考え、この題材を設定した。

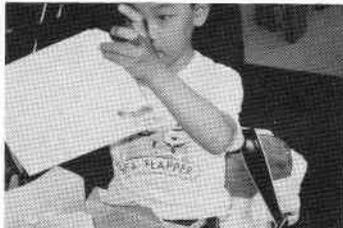
2. 発想<教師の関わり>

材料の意外性や応用性、動きのおもしろさに気づかせるために、ひとつの箱がおもしろく動くまで(変身の過程)をじっくりと見せた。

生徒達がしくみを作り、操作しながら発想していく場では、動かす方向を変えたり、試し紙を付けて動かすなどして、多様な動きの中から自分の作りたいものがイメージできるように、個や全体に関わった。



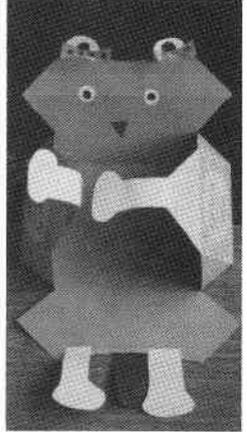
動いた! ○○みたい!



集中!



動かして、見る。



3. 製作

ひとりひとりの思いを実現できるように、援助や助言をするよう心がけた。

4. 完成

こうもりが飛んでいるところ、タヌキがカステネットをたたいているところ、ラッコが貝を割っているところ、カエルが赤ちゃんをだっこしているところ、くまがたいこをたたいているところ、などなど、実にバラエティに富んだ内容のおもちゃが出来上がった。子供の発想の豊かさには脱帽してしまう。完成したその日におもちゃを持って帰り、おうちの人に見せたいという子がいっぱいいた。

5. 反省

ひとりをぬかして、大喜びだった今回の授業、そのひとりに私は、その子の考えを生かすのではなく、私の発想を押しつけるような助言をしてしまったのである。出来た作品は、大胆な発想で、素晴らしい作品になった。ほかの子供からも賞讃を受けた。しかし、その子は、少しも満足していなかったのである。もっともっと、子供の思いを大切にしていきたいと思う。

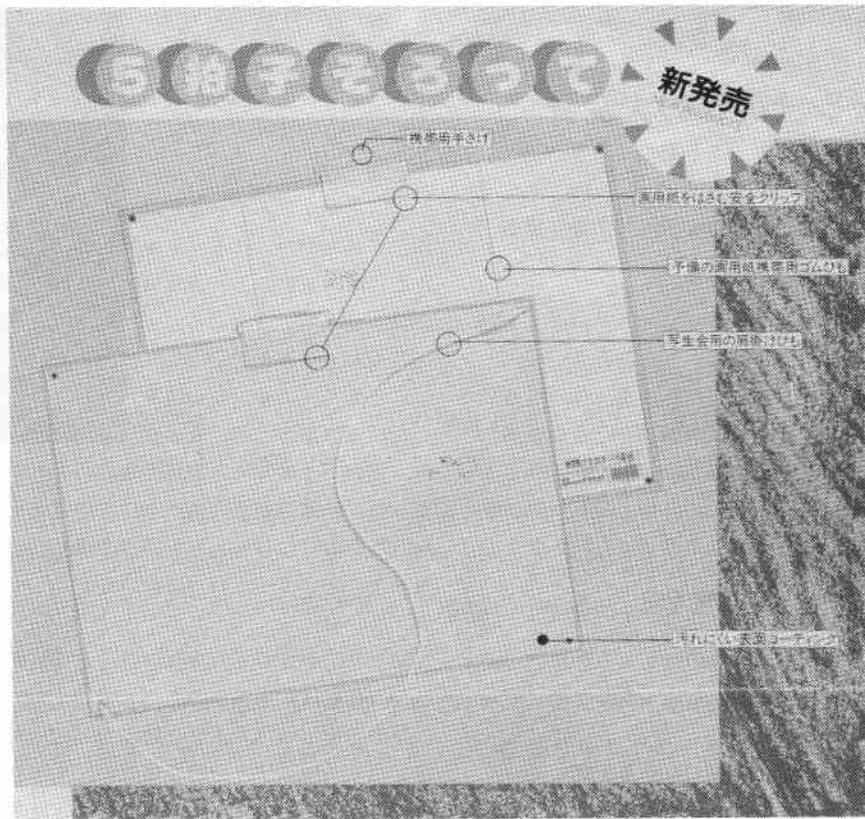
原点

作家 本郷 新

米谷 哲夫

○クリスチャンの家庭教育をうけた新少年は心のやさしい、思いやりのある性格であったそうである。小学生の時、宮の森に住み、神宮の近くに良質な粘土があったので、色々なものをつくったようである。特に「ねずみ」をつくり、学校で先生に大変ほめられ、得意になっていたが、親戚のおじさんが、その「ねずみ」を借りてゆき、面相筆で全体に毛をかきこみ、より写実化したと喜んでいたのであるが、新少年は、彫刻と装飾品の違いを感得し不快に思ったと話している。まさに『梅檀は二葉より芳し』で

ある。中学生になり④今井で同級生と油絵二人展を開くなどと、当時にしては珍しい事だったろう。○戦争の悲惨さを体験するとともに、平和を愛好する気持は強く、戦時中は頭像とか男体をつくっていたが、戦後裸婦を制作すると緒に戦争の悲しみと、怒りを表現している。又彫刻は吾々庶民のもので、親しみやすいものではいけないと考え、国内にモニュマン即ち記念像として60点以上設置されている。一人の芸術家として終る迄の足跡を知る時、その歩んだ道は作品によって表現されるが、その原動力は、小学校時代に、先生によってほめられた事から始まり、たゆまざる努力とバイタリティの所産にはかならないのではなからうか。



新発売

サクラプラスチック画板

- 1 **軽い** 総重量350gと従来の画板に比べ大変軽くなっています。
- 2 **安全** 簡単に画用紙をはさめる樹脂クリップの為、指をはさむ心配がありません。
- 3 **便利** 写生用の肩掛けひもや予備画用紙の携帯用ゴムひもがつき、大変便利です。
- 4 **清潔** 表面は樹脂加工で仕上げられている為、ふ着した絵の具がきれいにふきとれます。
- 5 **多用途** 表面はホワイトボード、裏面は掲示板としてもお使いいただけます。

株式会社 サクラクレパス

学校名	学年
なまえ	

●名前シールつき●
 クリップや裏面に貼って下さい。

商品名	略号	品 No	JAN.NO.	サイズ	小売価格	包装単位	箱入数
サクラプラスチック画板	ブラガバン	184298	4901881184291	B3判(4つ切り)用 470mm×330mm	1,000円	1コ	20コ

株式会社 サクラクレパス 札幌営業所
 札幌市中央区南4条西13丁目
 ☎064 TEL (563) 5161 (代)

あ と が き

いよいよ連盟結成40周年の記念大会、苫小牧大会を迎えました。七夕の彦星・織女星のように年に1度の顔合わせをくりかえして40年。いろいろな出会いがあり、さまざまな出来ごとがあり、たくさんの内容が語られ、貴重な実践が積み重ねられてきました。今回は、紙の大会、カミのマツリだそうです。多くのカミワザを得て帰りましょう。この苫小牧大会に86号をお届けいたします。

伊藤善彬(曙小) 稲實 順(八軒西) 植木則子(藻岩南) 島 界二(札苗中) 岩間歳二(もみじ台中)